

第2回サイエンスシンポジウム 「身近にあるサイエンス ～植物・脳・重力～」

主催：在独PIネットワーク、在ドイツ日本国大使館

場所：在ドイツ日本国大使館多目的ホール

日時：2019年5月24日(金)

16:00 開場

16:30- 開会挨拶

16:40- 講義1 「バイキン？だらけの野菜や果物」 中野 亮平 (マックスプランク植物育種学研究所 DFG PI)

「バイキン」と聞くと、きたないなあ、と思うでしょうか？

たしかに病気の原因になる「きたない」バイキンもたくさんいますが、実は野菜や果物が美味しく元気に育つには欠かせない「きれいな」バイキンもいるのです。そんな「植物」と「バイキン」をめぐる様々なストーリーをご紹介します。

17:20- 講義2 「頭のなかのワタン」 伊藤 博 (マックスプランク脳科学研究所リサーチグループリーダー)

脳のしくみってどうなっているのだろう？

なぜ昔の出来事を思いだせるの？ どうして地図がなくても迷わず家に帰れるの？

脳を調べればココロもわかるの？最新の脳研究を紹介します。

18:00- 講義3 「重力波の発見」 柴田 大 (マックスプランク重力物理学研究所ディレクター)

アインシュタインは1915年に重力の理論である一般相対性理論を完成させた。

この理論では重力波と呼ばれる波の存在が知られるが、2015年になって初めて、その存在が大型重力波検出器で捉えられた。

講義では、重力波とその検出について説明する予定である。

18:40- 質疑応答

19:00- 閉会、懇親会

言語：日本語 参加費：無料

